

日本大学三島高等学校

同窓会会報

第17号

昭和63年3月1日
静岡県三島市文教町2
日大三島高校同窓会 発行

御挨拶

同窓会会長 高田菊平



会員の皆様方におかれましては
お変わりなく、それぞれの分野に
おきまして、御活躍のこととお慶
び申し上げます。皆様方の変わら
ぬ御支援により、同窓会の活動も、
それぞれの地域において、年々着
実な歩みが続けておりますこと、
大変ありがたく厚く御礼申し上げ
ます。

一九八八年に入り大変厳しい年
となっておりますが、昨年一ヶ年
の円高を中心とする経済変動は、
各産業に大きな影響を与え経済構
造基盤の根本的な改革を要求して
しまうほどでありました。そして
企業間の格差は広がり、時代に即
応した対応をそれぞれの企業が求

められているのは事実であり、よ
り一層の努力を必要とされており
ます。

会員の皆様方ととりまく環境は、
このように変化の激しいところに
ありますが、又年齢的にも一番が
んばりを要求されるところにあろ
うと思います。それぞれの立場で
目標とするところに大いにがんば
ってほしいものであります。

さて、今年には母校が創立され三
十周年をむかえることとなりまし
た。昭和三十三年に開設されて以
来、関係各位のかわらぬ御支援に
より今日の立派な母校となりました
ことは、大変慶ばしいことであ
ります。同窓会々員にとって、母
校が発展して立派な学校になって
くれることこそ、大変ありがたい
ことであり、又、同窓会々員にと
って大きな励みとなるものであり
ます。今後のますますの発展を願
ってやみません。昨年にもお話し
しましたように、三十周年を記念
して同窓会々員の名簿を発行する

よう準備を進めておりますが、今
まで各分野で活躍しております会
員の消息を十分に知ることができ
ず、お互いの会員同志の、よい意
味での活用を、活発にできる素地
がありながら放置して

きたのが現状であります。
この会員名簿の発
行を成功させる為に、
皆様方の会員の情報を
ぜひとも事務局にいた
だけますよう、御協力
をよろしくお願い申し
上げます。

地域における、皆様
方の支部の活動も、支
部長を中心に活発に行
なれておりますが、
お互いの会員の情報交
換、親睦を深めて、さ
らにその輪を広げてい
つてもらいたいもので
あります。毎年約一千
余名の新入会員を迎え
同窓会員は年々多くな

り、そのつながりを強めていくの
は大変なことであります。それぞ
れのパートにおいて、クラス会に
しろ、部活動OB会にしろ、職域
部会にしろ。できるだけお互いの
交流ができるチャンスを作って、
また同窓生としての絆を深めてい
くように努力していきたいと思います
ようお願い申し上げます。
皆様方のかわらぬ御支援と御協
力を感謝申し上げます、又、会員の皆
様の御多幸を祈念し、御挨拶とい
たします。

(63・1)

高田菊平氏の紹介

母校第一期生。昭和五十三年四
月より、故玉津徳太郎先生（母校
二代目の校長）の後を受け継ぎ、
第三代目の同窓会々長となる。ま
た、五十九年から、日本大学三島
学園体育奨励会々長をもつとめ、
その任を立派に果たした。

そして、六十三年からは、会長職
をゆずり、副会長をつとめること
になった。

現在、三島市梅名にある、ニュ
ーデルタ工業株式会社社長として
大変に多忙な生活を送っている。
趣味は、テニス・ゴルフ・山登
り・旅などと広い。



全国大会出場部

御挨拶

校長 北岡 功



ことしの卒業生（二八期生）の数は九四〇名、これを皆さんの同窓会員に加えると、三万と二二二名の大台となる。

同期（同級）の間でつくられた絆をヨコ型の人脈というならば、皆さんの同窓会は、先輩・後輩という新しい人間関係のタテ型の人脈ということになる。この九四〇名の後輩、同窓会新人会員をよろしくご指導ねがいたい。

ときに話は変わるが、最近、斜め型人脈ということが耳にすることがある。いま申しあげた当面の同期生によるヨコ型とか、先輩・後輩によるタテ型の人脈とは関係なく、すなわち自分とは直接につながりのない所で知り合った人間関係を大事にしろ、ということである。もちろん、その動機は同級あるいは先輩を通して知りあうことになろうが、それらのいずれの分野にも入らない、いわば第三者的な人間関係の輪を有効に押しひ

ろげていけ、ということである。学究の面にしろ、就職した現場からにしろ、この斜め型人脈には限界がない。いわば生涯を通して自分の分身ともなる人をこの世間のなかから一人でも多く探しだせ、ということになる。

幸い、本学は（こと、昭和一ケタ以降の先輩で）会社の社長のポストにある人材の数が全国一位を占めているという。だから皆さんの同窓会を通して、それらの斜め型人脈の糸をたぐることには事欠かない状況および環境にあるといつてもよい。

何のことはない、まず足元のわれらが日大三島高校の同窓会の人間関係を縦横に駆使し、がっちり固め——全国の同窓会、校友会へとつなげていけばよいのである。まず隄より始めろ、である。

次に、お願いしたいことは、この九四〇名の新入会員にもう個人の時代は去ったということを出会いの折々に話してやって頂きたいものである。まず全体（高校同窓会）に奉仕することによって、すなわち同窓会の活力がより強靱に向かうことによつて、はじめてその人自身の働く分野も大きく変貌、ひいては斜め型人脈にも自ずとかかわっていける保証を示してやっ

て頂きたいものである。

これからの実人生、どんな職業に就こうとも、まず自らのエネルギーをすべて職場に注入すること（個人の勝手気ままを殺すこと）によつて、その人自身の幸せに還ってくることを示唆して頂きたいものである。

皆さんのご発展を心よりお祈り申し上げます。

（63・1・30）



幹事長挨拶

創造の時代への自覚

遠藤 日出夫（二期）



卒業生のみならず、新たに同窓会に御入会心よりおよろこび申し上げます。本年は、日大三島高校も創立三十周年を迎え、記念すべき年になりました。同窓会としては、三十周年の事業を理事会においていろいろと考えております。

皆様におかれましては何かよいアイデアがございましたら、それぞれの支部の支部長にご提言下さい。皆様が実際に各支部の同窓会に御協力いただけるのは、大部分の人達が大学等に進学されるので、数年後になるでしょう。高校生活と違った場所の空気を吸い、種々の事を吸収して皆様が地元に戻ってこられた時に、職種がちがっても、先輩、後輩が一丸となつてその土地で根強く育っていく同窓会であると感ずる事と思います。しかし、皆様が実社会に出られる頃は非常に就職難か、または違った方向で労働力を必要とするかわかりませんが、現地点においては、就職難が予想されます。

皆様が生まれた頃は、日本は一

番高度成長の時代で飽食の時代でもありました。何でも簡単に手に入り、右をみて左をみても何一つ出来ない事はなく育ってきたはずで、それはわれわれ先人が作りだした事であり、これからの時代は、新しいものを送り出す「創造の時代」という事を自覚しむかつて行かなければ何もなくなってしまうでしょう。私たちは皆様の力強いバイタリティに期待しております。

さて、日大三島同窓会は全十一支部から成り、母校建学の精神にのっとり会員相互の親睦と融和を図り、母校発展興隆に寄与することを目的として活動しています。事業としての主なものは、二月の同窓会入会式にはじまり、記念講演会、四月の総会、七月の沼津港よりの舟を借り切つての納涼船などです。さらに各支部においても、入会式、ボーリング大会、ソフトボール大会、地引綱など、多彩な行事が行なわれ各地域での友愛を深めております。人間は一人では生きていけないものです。今日から大勢の仲間と頑張ろうではありませんか。

長泉町にある割烹「静山荘」を経営。

新入会員を迎えて

歓迎の言葉

ようこそ桜の精鋭たち

植松敬之 (十四期)



新入会員の諸君、ご卒業おめでとうございます。日本大学三島高校の同窓生として、これからの、縦横無尽のご活躍を、期待しております。

私が本校を卒業し、日本大学法学部に進学したのが昭和四十八年いつも気持ちには若いつもりでいましたが、現実には流れていった歳月を目の前につきつけられると、自分も社会人の中堅として、もっとしっかりしなければと、認識を新たにす今日この頃です。

学生時代から現在まで、日大と私との係わりはとても深いものがあります。家業である印刷会社を継いで忙しい毎日を送っておりませんが、仕事の上で母校の皆様には大変お世話になっており、とても感謝致しております。また、いろいろなお得意先や会合の席上でも「君も日大出身か、僕も〇〇期だよ。」と、話し掛けられる事もしばしばあり、私にとって桜の効用は大なるものがあります。

新入会員の言葉

責任と自覚のある人間像を目差して

風間直人 (二十八期)



人生は五十年といいますが、今

では医学の目覚ましい発達や食物の良質化のおかげで、日本人の平均寿命は七十歳から八十歳を数えるようになってきました。今、僕たちの住んでいる身の周りでも、それに伴い、医療施設や病院などが数多く見受けられ、まさに現代医学の力が、文明の力の偉大さが切に感じられます。このような医学の発達の中で、人間は以前より長く生涯を送ることができるようになり、一日一日の生活には、ゆとりがでてきました。

しかし個人の生活が豊かになり衣食住が発達してくると、それを取り巻く社会では、秩序を保つた

めに数多くのルールや規則が生まれ、また、個人においても自分の行いに対する責任や社会人としての自覚や見識が、世間という人生行路を進むうえで前以上に必要となってきました。

僕たちは高等学校の課程を無事終了し、第二十八期生として同窓会に入会させて頂くわけですが、それと同時に一社会人として、このルールと規則で成り立っている長い人生行路の荒波の中へ出舟してゆかなければなりません。

この世に生を受けてわずか十八年の僕たちですから人生経験は少なく、人間関係においても乏しいものです。しかし、中学、高校生活の中で身につけた多くの知識や、校長先生をはじめとして諸先生方の教えや戒めを守りつつ、友人関係を大切に、世間の荒波を勇気を持って、全力で乗り越えてゆこ

うと思います。そして社会人としての自覚を持ち、これから僕たちが為すべきことを責任をもって成就しようと思います。

何分にも未熟な僕達です。時には危ない道に足を踏み入れたら、悩み苦しむことがあるかもしれません。どうかそのような時は厳しく、そして、優しく励まして下さい。お教えの一つ一つを心に刻み確実に僕達の時代を築き上げてゆきたいと思っております。暖かい眼差しで僕達をいつまでも見守って下さいますようお願いいたします。

クラス幹事選ばれる

二十八期生のクラス幹事が、左記の表のように決まりました。卒業後は様々の道に歩むことですが、母校の仲間には永遠の友です。しばらくは、各地へ移っての学業と仕事が続くでしょうが、いずれまたこの三島を中心とする地元にもどって来るでしょう。どうかいつまでも、クラス幹事を中心とした、日大三島同窓会、そしてクラス会をつくり上げていってください。

二十八期生クラス幹事

三の一 竹中朝崇
三の二 大久保晴康
三の三 浅見徹也
三の四 山内隆史
三の五 篠原篤徳

三の六 深澤武司
三の七 山下達也
三の八 木村寿利
三の九 内藤慎太郎
三の十 山田伸太郎

三の十一 勝海正剛
三の十二 中田茂
三の十三 矢田武
三のA 小山知代
三のB 金子美紀
三のC 青島加奈
三のD 大石恵子
三のE 田中百子
三のF 小林真由美
三のG 赤池ひとみ

ようこそ 桜の精鋭たち
伴に いざ
羽ばたかん
(南)大和印刷所 専務取締役

母 校 部 活 状 況

◎全国高等学校総合体育大会

〔全国大会出場部〕

陸上競技部、卓球部、水泳部、テニス部、スケート部

総合 6位 水泳部

個人

- 3位 水泳部(男子)……石谷明彦(100m平泳)
伴野、石谷、中谷、藍川(400mメドレーリレー)
4位 水泳部(男子)……石谷朋彦(200m平泳)
藍川健一(100m自由、200m自由)
4位 陸上競技部……小沢清隆(ハンマー投げ)

◎国民体育大会

〔出場部〕 陸上競技部、水泳部、剣道部、スケート部

個人 1位 水泳部…中谷弘幸(少年B200mバタフライ)

2位 水泳部…石谷朋彦(少年A200m平泳)、
服部幸治(少年B200m平泳)、石谷、藍川(少年
A400mメドレーリレー)、中野、服部、中谷(少年B
400mメドレーリレー)、渡井慈、大嶽まゆみ(少年女
子B200mリレー)

- 3位 水泳部…藍川健一(少年A100m自由)
4位 水泳部…甲斐、藍川(少年A800mリレー)
6位 水泳部…宮代達也(少年A200m平泳)

勝又、中谷(少年B400mリレー)、大嶽まゆみ(少年
女子B100m背泳)



水泳部のメンバー

◎全国高等学校総合体育大会県大会

総合優勝 水泳部(男子・女子)

スケート部(男子・女子)18連勝

2位 バレーボール部(男子)、柔道部

3位 ソフトボール部

個人 優勝 水泳部(男子)……甲斐貴信(1500m自由、400m自由)、石谷朋彦(100m平泳、200m平泳)、中谷弘幸(200mバタフライ)、藍川健一(200m自由、100m自由)、伴野、石谷、中谷、藍川(400mメドレーリレー)、勝又、甲斐、鈴木、原(400mリレー)、甲斐、羽畑、原、藍川(800mリレー)

優勝 水泳部(女子)……杉本江里(800m自由、400m自由)、伊藤可奈子(200mバタフライ、100mバタフライ)、大嶽まゆみ(100m背泳)、大嶽、南岡伊藤、渡井(400mメドレーリレー)、南岡、渡井、大嶽、大嶽(400mリレー)

優勝 スケート部……杉山晴道(1500m)
飯倉・久永・鈴木・杉山(2000mリレー)
木下里佳(500m)

◎全国高等学校総合体育大会東海大会

〔東海大会出場部〕

陸上競技部、柔道部、卓球部、テニス部、水泳部、相撲部、バレーボール部(男子)

総合優勝 水泳部(男子)、柔道部

2位 テニス部(女子)

個人 優勝 水泳部(男子)……石谷明彦(200m平泳、100m平泳)、藍川健一(200m自由、100m自由)
甲斐貴信(400m自由、1500m自由)、中谷弘幸(200mバタフライ、100mバタフライ)、原、甲斐、羽畑、藍川(800mリレー)、伴野、石谷、中谷、藍川(400mメドレーリレー)

2位 水泳部(男子)……宮代達也(100m平泳)
西村浩一(1500m自由)

2位 水泳部(女子)……杉本江里(800m自由)

選手権大会

3月18日～20日
東京・日本武道館



出場選手

柔道部・庭球部(女子)が出場

3月22日～25日
福岡県久山町

久山ロイヤルテニスクラブコート



出場選手

庭球部

選手氏名	学年	得意なプレー
杉山貴子	2	タッチ的なテニス
橋本宏美	1	粘りのテニス
遠藤朱美	2	強烈なストロークの持ち主
遠藤リサ	1	実力向上中
遠藤圭美	2	前衛でのボレーとスマッシュは県内ピカ。
田沢知子	1	ストロークプレーヤ

メンバー表

放 送 部

文部大臣賞に輝く

文部大臣賞の栄冠を得た放送部の活躍の結果は、下記の通りです。

◎第34回NHK杯全国高校放送コンテスト

研究発表部門「子供たちへのテレフォンサービス」

全国1位 文部大臣賞

ラジオ番組課題部門「うすいのが好き？」

全国1位 文部大臣賞

朗読部門

平川 幸子

全国優秀賞

◎第25回全国高等学校放送コンクール

ラジオ制作朗読部門 神田 暢子 全国1位

ラジオ制作アナウンス・DJ部門

久保田小百合 全国3位

ラジオ制作ドラマドキュメント部門

「ホップ・ステップ・デブ」 全国3位

映像制作ビデオ部門 「FINISHER」 全国奨励賞

第25回記念優秀学校賞受賞

〈柔道部〉

◎第19回全日本新人体重別県大会

86kg以下級 1位 渡辺精一 2位 菊池 傑

95kg以下級 1位 山本幸一 2位 清 英人

◎第19回全日本新人体重別東海大会

86kg以下級 1位 渡辺精一(全国大会出場権を得ました)

95kg以下級 2位 山本幸一

〈剣道部〉

◎静岡県高校剣道選手権大会 3位

〈テニス部〉

◎全国選抜高校庭球東海大会

団体2位(全国大会出場権を得ました)

〈スケート部〉

◎全日本選抜ショートトラックスピード選手権大会

500m 2組 2位 木下里佳

〈写真部〉

◎けんみんテレビ高校野球フォトコンテスト

杉山彰一 特選

◎第11回全国高校野球フォトコンテスト

望月 靖 特選(全国4位相当)

勝又裕介、杉山彰一、古屋 厚 入選

◎第5回静岡県高校写真コンクール

田宮 創、杉山彰一 奨励賞

◎第9回よみうり写真大賞 勝又裕介、勝又英司 佳作

◎第15回キャノンヤングフォトコンテスト

勝又教夫 入選

◎第8回オリンパスフォトコンテスト 杉山彰一 入選

〈美術部〉

◎第21回全国高校生ポスター・絵画・写真・映像コンクール

最優秀学校賞、文部大臣奨励賞、毎日新聞社賞

渡辺邦彦 金賞

田宮 彩、原 浩次、石井浩明、河野紀子 佳作

◎第70回全国高校野球選手権記念大会ポスター原画コン

クール 牧山香里 佳作、 鶴見貴子 努力賞

◎新人大大会県大会

〔出場部〕

体操部、水泳部、相撲部、サッカー部、陸上競技部、ソフトボール部、バスケットボール部、柔道部、剣道部、山岳部、卓球部、吹奏楽部、スケート部、テニス部

〔団体〕 1位 水泳部(男子、女子)、柔道部、テニス部(女子)

3位 バスケットボール部(男子)

(柔道部は第10回全国選抜大会出場権を得ました。)

〔個人〕 優勝 テニス部(女子)……遠藤朱美、遠藤圭美(ダブルス)

優勝 水泳部(男子)……藍川健一(100m自由、200m自由)、鈴木崇宏(400m自由)、西村浩一(800m自由)、中谷弘幸(100mバタフライ、200mバタフライ)、宮代達也(100m平泳、200m平泳)、伴野浩之(100m背泳、200m背泳)

優勝 水泳部(女子)……渡井 慈(100m自由、200m自由)、杉本江里(400m自由、800m自由)、伊藤可奈子(100mバタフライ、200mバタフライ)、南雲珠江(200m個人メドレー、400m個人メドレー)

2位 テニス部(女子)……杉山貴子、遠藤リサ(ダブルス)

2位 水泳部(男子)……西村浩一(400m自由)、鈴木崇宏(800m自由)、勝又健介(100mバタフライ)、中野憲秀(200m背景)、小野田敦雄(200m個人メドレー)、山口祐樹(100m平泳)

2位 水泳部(女子)……大嶽仁美(400m自由、800m自由)、大嶽まゆみ(100m背泳)

3位 水泳部(男子)……羽畑博孝(400m自由)、勝又健介(200mバタフライ)、服部幸治(100m平泳、200m平泳)、中野憲秀(100m背泳)、山口祐樹(200m背泳)

3位 テニス部(女子)……慶野明子、後藤いづみ(ダブルス)

〈野球部〉

◎全国高等学校野球選手権大会静岡県大会 3位

全国選抜高等学校

柔道部

選 手 氏 名	学 年	得 意 技
菊 池 傑	2	内股・体落とし
保 科 利 光	2	背 負 い
高 村 将 王	2	背 負 い
相 原 康 二	1	背 負 い
木 村 善 一	1	払い腰・体落とし
稲 葉 英 明	1	内 股

メンバー表



〔訃報〕

福田 篤先生のご逝去



昭和六十二年八月十一日、午前一時四十六分、母校教諭の福田篤先生が、胃癌のため入院先の病院で逝去されました。

先生は、昭和三十五年、日本大文学部（現文理学部）国文科を卒業され、同年四月より母校に赴任されました。以来、国語の教鞭を執りながら、放送部顧問、女子

福田先生を偲ぶ

母校教諭

田上 清美

二十六年間の交友のなかで、折り折りの思い出は数多くあるが、そのなかでも一番印象に残るのは、昭和六十一年八月に同行した十日間の中国旅行である。

教科も同じ国語であり、教科書を通して漢詩に詠われた自然やその背景を想い、漢文による歴史や人物へ馳せた想いなど、古典のなかの漢詩・漢文の故郷である中国を訪ねたいという想いは、二人に共通の念願であったと思う。

北京で故宮博物館や十三陵に朽ちたスケールと歴史の重みを感じ、万里の長城の広大さに圧倒さ

部主任、学年主任、そして生活指導部主任として、誠に深い情熱をもって我々を導いてくださりました。

また一方では、県桜師会（日本大学出身の教職員の方々の会）の理事としてご尽力されたことも忘れ

同窓会員の誰もの胸に、先生の姿が生きていることと思います。先生の、あのきめこまかで真剣な姿を、我々には忘れることがないでしょう。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

れながら「万里長に征戦」と詠った李白の詩を想っていると、福田先生は重いカメラをかついで、写真の撮影に走りまわっていた。

西安では、その昔「長安一片の月」と詠われた李白の詩を想い、玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスの舞台となった華清池では、「春寒くして、浴を賜う華清の池」と『長恨歌』に詠った、白居易の詩を想った。

その清華池でも福田先生は写真撮影に余念がなかったが、その池畔で一緒に写した写真が記念として残っている。

また「碑林」では、気が遠くなるほどの数多くの石碑の中から、杜



碑林にて
福田先生とともに

牧の「遠く寒山に登れば石径斜なり」の七言絶句『山行』の詩に出会ったが、ここでも福田先生は精力的に歩きまわって写真をとっていた。

蘭州では、まず黄河の水が印象的であり、荒涼とした砂漠地帯の始まりの様相が感じられた。そして「酔うて沙場に臥すとも君笑うことなかれ」と詠んだ王翰の『涼州詞』を想った。

その蘭州から敦煌への旅はハブニングの連続であった。それは、折からの炎暑のため敦煌飛行場には昼間は着陸できないとのことで、夜まで待たされ、午後十一時頃出発して機上でまどろんでいるうちに、嘉峪関の飛行場に不時着したのであった。開けば砂嵐で敦煌飛行場には着陸できないとのことであ

その嘉峪関飛行場でも砂嵐に見舞われたが、その時「渭城の朝雨輕塵をうるおし／客舎青々柳色新たなり」という王維の詩が実感として身にしみたのであった。それは、この地ではどんなに雨が貴重であるかが判ったからである。

この嘉峪関不時着のため、敦煌

から西南六十五キロの地点にある陽関や、西北八十五キロの地点にある玉門関の見学は断念せざるをえなかった。陽関は王維の詩『送元二使安西』に「君に勸む更につくせ一杯の酒／西のかた陽関を出ずれば故人無からん」と詠われ、玉門関は李白の詩『子夜呉歌』に「秋風吹きつくさず／すべてこれ

昭和六十二年度 事業報告

(一) 総会

六月十三日

於「母校八号館」

- 一、開会の辞
- 一、会長挨拶
- 一、母校校長挨拶
- 一、議事

- (1) 昭和六十一年度事業報告
- (2) 昭和六十一年度決算報告
- (3) 昭和六十二年事業報告
- (4) 昭和六十二年度予算案
- (5) その他

- 三十周年に向けて
- 名簿作成の経過
- 一、懇親会
- 二、幹事会

- 一、五月十九日 於「樺」
- 総会の件
- 名簿作成の件
- 三十周年記念の件
- 納涼船の件
- 二、十月九日 於「樺」
- 三十周年記念の件
- 入会式の件
- 会報の件
- 三、一月三十日 於「三楽」
- 入会式の件
- 記念講演会の件
- 会報の件

玉関の情」と詠われている。福田先生とは、この地を訪れた時には、ともに詩を吟じようと話しあっていたのであった。

手術の前日見舞いに行くと「元

氣になったら今度は南中国に行こう」と言った福田先生の言葉が今でも私は忘れられないのである。

(三) 事業

一、八月二日 納涼船

沼津港より

二、二月十三日

於「母校八号館」

- 第二十八期卒業生 同窓会入会式
- 記念講演会

「可能性への挑戦」

ロス五輪代表 室伏重信氏

三、三月一日

○同窓会会報発行 第十七号

(四) 支部

○田方 六十二年八月九日

於「洋ランパーク」

○熱海 六十二年四月一日

於「魚直」

○沼津 六十二年三月五日

(五) その他

○事務局会 二回

○忘年会 十一月三十日

沼津 ディオール

○その他各クラス・各クラブ同窓会

支部だより

丸山浩路氏を迎えて

田方支部長

山田守宏 (三期)



田方支部は昨年新たなるころみをしました。それは、七期生の土屋省市君が中心となって、昨年六月二十一日に大仁町民会館で講演会をひらいたことです。田方支部はその後援となったわけです。さて、講師は丸山浩路先生。コミュニケーション評論家、ボディランゲージストとして大変に活躍

中。NHK教育テレビ「聴力障害者の時間」のメイン司会者もつとめています。

さて当日は、三島を中心とし伊豆の各地からたくさんの方々が集まって来られました。「やさしさは花」という話の中に、我々会員達もいつしかひきこまれていきませんでした。「ボランティアは施してはない」という先生の言葉に、我々は真に学ぶことがあったように思います。

そうして八月九日大仁洋らんパークで、北岡校長先生、高田会長をお招きして総会をひらきました。当日は新入会員を含め多くの方々に参加してくださいました。会員の皆様に深く御礼申し上げます。それにしても仲間とはいいいものではありませんか。今後とも、お互いに頑張っていきましょう。



丸山浩路先生を囲んで「あなたを愛する」のポーズで手話

熱海支部長

谷口俊二 (二期)

熱海支部としては、昨年四月一日、魚直で総会をひらきました。また、今年の一月三十日には、長岡の星雲荘にて「桜樹会」(母校出身の市役所勤務者。代表は原収君)をもちました。いつもながら、会員の皆様のおかげで、あたたかい協力をいただきまして、感謝しております。さらに広く会員の皆様の参加を待っています。

沼津支部長

今井信之 (二期)



ほそくながいつきあいを、と思っていますので、皆様よろしくお願いいたします。

六十二年度沼津支部は、第五回目の支部総会という伏し目にあたり、母校出身でハンマー投げの室伏重信君を招いて記念講演を行いました。初め一時間を予定した講演も沼津出身ということもあり二十分をオーバーし、関係をどぎまぎさせましたが、集まった約百四十名の同窓生も、室伏君の偉大さに感銘しました。

また、六十二年度の統一地方選挙では、市議三期目をねらう滝口文昭君を支部で推選し、当選させることができたらしいかぎりです。沼津支部では、年二回のゴルフコンペを行い、会員相互の親睦をはかっていますので、ぜひ参加してほしいと思います。また、総会その他の行事も行っていますが、会員の皆様全員に連絡ができずに困っています。各学年で幹事を選出して支部活動に御協力ください。

総会のお知らせ

三月五日・沼津キャッスルホテル
十九時・男三千五百円。
女三千円・参加を待っています。

名簿作成にむけて

同窓会では母校校創設三十周年を記念して、会員の皆様のご協力を得ながら、名簿作りをしています。そして、今年の七月末頃にでき上がる予定です。一部三千八百円です。かなりの会員からの申込みがありました。必要な方は母校事務局まで連絡してください。

第二十八期生

同窓会入会式

ハンマー投げ

室伏重信選手 (四期)

を迎えて

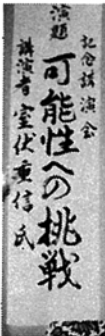
第二十八期生同窓会入会式は、二月十三日(土)母校八号館で行われました。今回は、第四期生の室伏重信氏を迎え、「可能性への挑戦」と題しての講演をいただきました。偉大なる先輩は我々の誇りでもあります。新入会員の皆さん、どうぞ頑張ってください。

今年で卒業者は三万二百四十名となりました。卒業証書三万号にあたる山崎恵子さんに、同窓会より記念品がおくられました。

日本大学三島高等第28期生



室伏重信選手



——名支部長——覧——

支部名	氏名	住所	T E L
三島	久保田 光	駿東郡清水町柿田丸	(〇五五九)七一—一九二二
田方	山田 守宏	田方郡大仁町立花台七四九—三七	(〇五五八)七六—五〇〇二
沼津	今井 信之	沼津市市場町一〇—一	(〇五五九)三一—七八七八
御殿場	武藤 康徳	御殿場市新橋一九七六	(〇五五〇)八二—二二八四
裾野	勝又 国佳	裾野市深良一五五一	(〇五五九)九七—一三九二
富士	西村 雅幸	富士市横割六一—二二五	(〇五四四)六一—五一七五
富士宮	秋山 一雅	富士宮市浅間町四—一五	(〇五四四)二六—三八四八
清水	久保田 容弘	庵原郡富士川町岩淵七八—一三	(〇五四五)八一—〇八八八
静岡	松下 悟	島田市横井四—一一—二三	(〇五四二)四五—八三一五
熱海	谷口 俊二	熱海市上多賀九二〇—一	(〇五五七)六八—四〇二二
小田原	川口 功一	小田原市東町四—一〇—一	(〇四六五)三四—〇四六四

日本大学三島高等学校

同窓会規約

第一章 総則

第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。

第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。

第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもって正会員とし、現教職員および元教職員をもって特別会員とする。

第四条 本会は、母校建学の精神にのっとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することを目的とする。

第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事

二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加

三、その他、目的達成のために必要な諸行事

第二章 機関

第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

一、総会 二、幹事会 三、支部会 四、事務局

五、編集委員会

第一節 総会

第七条 総会は本会運営の最高決議機関である。総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。

但し、必要により各支部を代表する支部長をもって、総会の決議にかえることができる。

総会は本会運営についての立案実行の一切の事務を幹事会に委嘱する。

第八条 総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項の報告をうけが認められた時、又は会員多数の要求があった場合、会長は臨時に召集しなければならない。

第九条 総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項の報告をうけが認められた時、又は会員多数の要求があった場合、会長は臨時に召集しなければならない。

第二節 幹事会

第十条 幹事会の運営機関として左記の事項を立案し総会の承認を経たのちこれを実行する。

一、予算・決算に関する事。

二、事業計画に関する事。

三、会則の改廃に関する事。

四、その他、第五条によって必要と認めた事項。

幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のもとに開催する。また、幹事長の幹事の三分の一以上の要求があった場合は、臨時に幹事会を召集しなければならない。

幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。

幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員

ならびに常任幹事によって構成され、必要により幹事会にかえることができる。

幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。

第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

第十六条 本会は左記の役員を置く。

会長一名 副会長二名 幹事長一名 副幹事長二名 幹事、常任幹事、会計監査二名

第二十一条 会長、副会長は、幹事会の推薦により、総会の決議をもって選出する。会長は本会を統理し、副会長はこれを補佐する。

第二十二条 幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。

第二十三条 副幹事長は幹事会を補佐する。

第二十四条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十五条 幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十六条 会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。

第二十七条 各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

第二十八条 本会の経費は会費ならびに寄附をもってこれに当てる。正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。

第十四条

第十五条

第十六条

第十七条

第十八条

第十九条

第二十条

第二十一条

第二十二条

第二十三条

第二十四条

第二十五条

第二十六条

第二十七条

第二十八条

第二十九条

第三十条

第三十一条

第三十二条

第三十三条

第三十四条

第三十五条

第三十六条

第三十七条

第三十八条

第三十九条

第四十条

第四十一条

第四十二条

第四十三条

第四十四条

第四十五条

第四十六条

第四十七条

第四十八条

第四十九条

第五十条

第五十一条

第五十二条

第五十三条

第五十四条

第五十五条

第五十六条

第五十七条

第五十八条

ならびに常任幹事によって構成され、必要により幹事会にかえることができる。

幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。

第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

第十六条 本会は左記の役員を置く。

会長一名 副会長二名 幹事長一名 副幹事長二名 幹事、常任幹事、会計監査二名

第二十一条 会長、副会長は、幹事会の推薦により、総会の決議をもって選出する。会長は本会を統理し、副会長はこれを補佐する。

第二十二条 幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。

第二十三条 副幹事長は幹事会を補佐する。

第二十四条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十五条 幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十六条 会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。

第二十七条 各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

第二十八条 本会の経費は会費ならびに寄附をもってこれに当てる。正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。

第二十九条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第三十条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得、これを表彰することができる。

第三十一条 会員として名譽を毀損する行為があったときは、会長が幹事会の議により総会の承認をえ、これを除名することができる。

第三十二条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に応える。

第三十三条 規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認を経て行なう。

第三十四条 制度施行 昭和三十六年三月十一日

第三十五条 改正施行 昭和四十七年四月一日

第三十六条 改正施行 昭和五十二年四月三十日

第三十七条

第三十八条

第三十九条

第四十条

第四十一条

第四十二条

第四十三条

第四十四条

第四十五条

第四十六条

第四十七条

第四十八条

第四十九条

第五十条

第五十一条

第五十二条

第五十三条

第五十四条

第五十五条

第五十六条

第五十七条

第五十八条

第五十九条

表彰規定

前文 本規定は日本大学三島高等学校同窓会規約第五章三十二条に基き、その適用細則を定めたものである。

第一条 本会々員にして、社会的に顕著な業績をあげた者に対し、所定の手続きを経て表彰することができる。

第二条 日本大学三島高等学校に在籍する者で、将来、国家社会に貢献し、母校及び本会の発展に寄与できる有為な人物及び団体に對し、奨学金又は奨励金を支給することができる。

(一) 奨学金の支給をうける者は、最終学年に在籍し、在籍期間中、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ有為な人物として学校長より推薦された者とする。ただし奨学金は一名を原則とする。

(二) 奨励金の支給をうける団体は、生徒会所属の団体で、顕著な業績をあげ更に一層の充実・発展が期待されるものとして、学校長より推薦された団体とする。ただし奨励金は一団体を原則とする。

第三条 第一条、第二条の表彰式は、年度末とし、総会または入会式に行う。

付 本規定は昭和五十二年二月十二日より施行する。